

平成21年度

事業計画書

平成21年4月

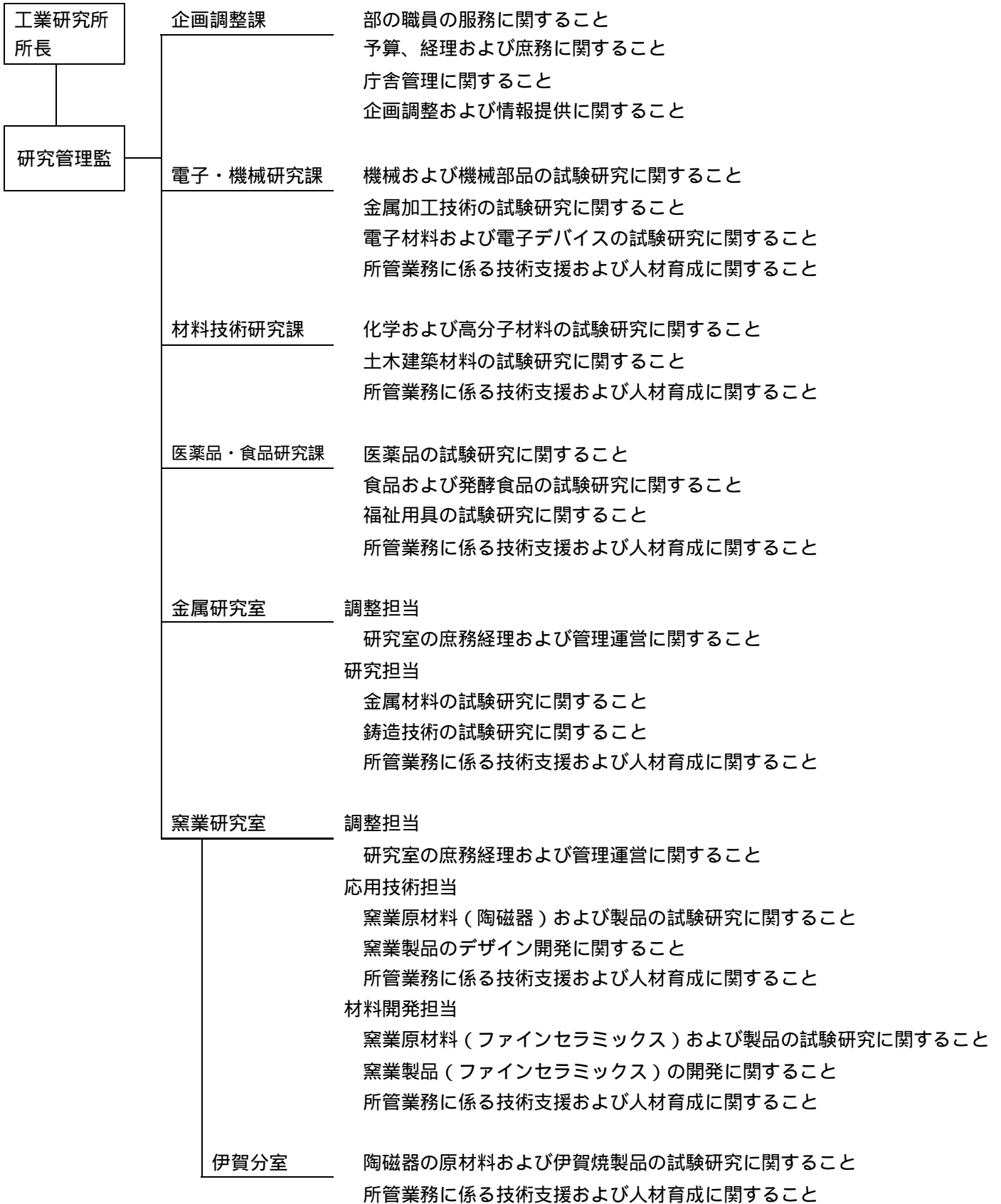
三重県工業研究所

目 次

1 組織と予算	
1.1 組織と業務	1
1.2 職員	2
1.3 事業予算	2
2 研究業務	
2.1 新分野への展開を図る技術開発の推進(23401)	3
2.2 地域産業を支援するための技術開発の推進(23402)	4
3 技術支援業務	
3.1 県内企業への技術支援の推進(23403)	6
4 その他の施策、基本事業への貢献	
4.1 科学技術交流の推進(513)	6
4.1.1 研究交流の推進(51301)	
4.1.2 科学技術への関心の増進(51303)	
4.2 安全で安心な農産物の安定的な供給(221)	9
4.2.1 消費者ニーズに応えた農畜産物の安定供給(22102)	
4.3 農林水産業を支える技術開発の促進(227)	9
4.3.1 農業を支える技術開発の推進(22701)	
4.4 廃棄物対策の促進(411)	9
4.4.1 廃棄物の減量化や環境危機対応のための調査研究・試験検査の推進(41104)	

1. 組織と予算

1.1 組織と業務



1.2 職 員

平成 21 年 4 月 1 日現在

職 名	工 業 研 究 所					金 属 研 究 室			窯 業 研 究 室					合 計
	所長	企画調整課	電子・機械研究課	材料技術研究課	医薬品・食品研究課	室長	調整担当	研究担当	室長	調整担当	応用技術担当	材料開発担当	伊賀分室	
所長	1													1
総括研究員兼研究管理監兼課長				1										1
副参事兼課長		1												1
総括研究員兼課長(室長)			1		1	1			1					4
副参事		1												1
主幹		1					1			1				3
主幹研究員			1	4	5			4			2	3	1	20
主査		3												3
主任研究員			4	2	4			1			1		1	13
主事		1												1
研究員			6	2	1			1				1	1	12
嘱託員				1			1	2		1				5
業務補助員		3		1						1			1	6
小 計	1	10	12	11	11	1	2	8	1	3	3	4	4	71
合 計			45			11			15					71

1.3 事業予算

歳 入

科 目	予算額(千円)
県庫補助金	72,307
使用料および手数料	0
財産収入	25,836
諸収入	100
繰入金	49,949
	18,276
計	166,468

歳 出

科 目	予算額(千円)
事業費	166,468
計	166,468

2. 研究業務

県民しあわせプラン第二次戦略計画(三重県の政策・事業体系)の政策 - 施策 - 基本事業 - 事務事業体系に位置付けられる「施策：技術の高度化の促進」に技術開発で貢献するため、以下の研究を実施する。

政策：地域経済を支える戦略的な産業振興
施策：技術の高度化の促進（234）

2.1 基本事業：新分野への展開を図る技術開発の推進（23401）

先端産業分野や市場の拡大が見込まれる新産業分野への県内企業の展開を促進するために、直面する技術課題の解決に向けた試験研究を行う。

具体的な取組として、燃料電池部材の発電評価技術や熱電変換材料等のエネルギー分野、一般薬の速崩壊錠、高齢化対応福祉製品等の医薬・健康福祉分野の研究を行うとともに、持続的資源として植物由来材料の用途開発研究を行い、産学官連携により県内産業界の新分野への展開をめざす。

(1) 新分野展開技術開発推進事業費

高温炉の熱を利用する熱電変換材料の開発研究費（継）平成19～21年度

電子・機械研究課

陶磁器や鋳物などの製造工程内の工業炉等で廃棄される熱エネルギーの有効利用を図るため、電気エネルギーへの変換を可能とする材料の開発に取り組む。平成21年度は、酸化亜鉛系n型材料について、熱電変換素子としての特性評価技術と発電を検証できるシステム（モジュール）技術の確立を行う。

次世代燃料電池開発事業費（新）平成21～23年度

電子・機械研究課、窯業研究室、窯業研究室伊賀分室

次世代技術とされる2つの異なる燃料電池を対象に研究を行う。平成21年度は、従来の作動温度領域（70～80℃）よりも高温である160～180℃で作動する固体高分子形燃料電池の性能評価技術の検討を行う。また、固体酸化物形燃料電池(SOFC)については、従来の作動温度領域よりも低温である650～750℃で高い性能が期待できる材料について検討を行い、実用サイズのセルを作製し、その評価を行う。

植物由来材料の新機能用途開発研究費（継）平成19～21年度

材料技術研究課

植物資源から取り出した再生可能なリグニンを活用して、新たな用途開発を行うことにより、環境分野の市場ニーズの拡大に対応した研究開発を推進する。平成21年度は、リグニンを活用した樹脂の分解性では、劣化防止剤添加による分解性制御を検討し、ガス吸着性では他の材料との比較を行う。

精密洗浄プロセスの高度化に関する研究（新）平成21年度

材料技術研究課

精密洗浄技術の高度化を達成するため、マイクロバブル水と超音波の組み合わせ手法による精密洗浄装置の最適フローについて検討する。

人にやさしい医療・福祉ものづくり事業費（継）平成20～22年度

医薬品・食品研究課

市場の拡大が見込まれる医療健康福祉分野を対象に、少子高齢社会に対応した「現場で使える繊維製品」の開発を目指す。平成21年度は、医療福祉用製品に対する要求事項及び医療福祉従事者のニーズ等の調査結果に基づき、病院・施設における高齢者用繊維製品の試作開発を行う。また、製品の付加価値を高めるため、薬用植物を用いた抗菌性の付与を検討する。

口腔内速崩壊錠の製剤化技術の開発事業費（新）平成21～23年度

医薬品・食品研究課

口腔内速崩壊錠は、元々医療用医薬品において嚥下が困難な患者のQOL向上のために開発された剤形であるが、一般用医薬品においてもニーズが高まっている。本事業では、薬物含量の多い一般用医薬品に対応可能な口腔内速崩壊錠の製剤化技術の開発を行う。平成21年度は、アセトアミノフェンをモデル薬物とし、配合する崩壊剤の種類・配合量等を検討するとともに、錠剤内への水の取り込みを促進する添加物を開発し、その物理化学的特性を明らかにする。

2.2 基本事業 : 地域産業を支援するための技術開発の推進 (23402)

地域産業におけるブランド創出や生産技術、材料開発技術の高度化を促進するために、直面する技術課題の解決に向けた試験研究を行う。

具体的な取組として、地域ブランドの創出や独自の魅力を持った陶磁器や鋳物製品、コンクリートなどの製品開発を行うとともに、機械・電子分野の生産技術の高度化にかかる技術開発に取り組む。

(1) 地域産業高度化技術開発推進事業費

電子回路のノイズ対策技術の開発研究費 (継) 平成20～22年度

電子・機械研究課

電子装置類から発生する伝導および放射性的の電磁ノイズについて、ノイズ発生を起こす要因となる基本回路やストリップ線路についてシミュレーションモデルの構築を行う。その電磁界解析のさまざまな事例について集約を行い、現場でのノイズ対策に役立つデータベースの基本構築を図る。また解析事例については電波暗室での実測比較により、解析モデルの妥当性及びシミュレーション方法についての検証を行う。

製造設備における故障診断技術調査費 (新) 平成21年度

電子・機械研究課

反復移動や非正常回転などの繰り返し動作を行う製造設備 (搬送設備、組立ライン設備、マシニングセンターなど) について、経年劣化に伴う故障や突発的な異常を“予防”するための故障診断システムはまだ少ない。そこで、製造現場での需要の調査と故障診断技術の問題点の把握を行い、今後の研究課題の探索を行う。

環境負荷を軽減する機能性コンクリート製品の開発研究費 (継) 平成20～22年度

材料技術研究課

新しい機能を付与させたコンクリート製品として、植生や水質浄化など環境分野での適用を想定した保水性の高い環境負荷軽減型コンクリートの開発を行う。また、近年の公共工事では、廃棄物の積極的な利用を推進していることから、リサイクル製品の開発も併せて検討する。

高分子材料のナノコンポジットに関する調査研究費 (新) 平成21年度

材料技術研究課

マトリックスである樹脂中に、クレイやセルロースナノファイバーを均一に分散させて作製されるナノコンポジットの、クレイやファイバーの均一分散・成形技術やセルロースナノファイバーの調製技術について調査・検討を行う。

食品の味覚特性評価技術の開発及び応用研究費 (新) 平成21～23年度

医薬品・食品研究課

食品の新商品開発および賞味期限設定に関わる味の評価や、発酵食品の製造工程における発酵生成物の評価は、中小・零細企業では経験や勘に頼っている場合が多く、信頼性の高いデータを得ることは困難である。そこで、味を数値化できる味覚センサーおよび成分を簡易に測定できる近赤外分光計を用いて、これらの簡易で客観的な評価技術を開発する。

機械産業用鋳物の溶解技術に関する研究事業費 (新) 平成21～23年度

金属研究室

鉄鋳物は、機械産業用部品として多く利用されるが、より緻密な材質の製品を供給することが求められている。そこで、鋳物の中に存在する微細な異物を削減するために、鉄の溶解条件と異物との関係の把握、発生原因特定のための異物の解析などを行う。

希土類元素を用いた鋳鉄の新しい表面処理技術開発事業費 (新) 平成21年度

金属研究室

6価クロメート処理に替わる新たな表面処理技術として、鋼材表面に希土類化合物を付着させる技術がある。そこで、本技術を鋳鉄に応用し耐食性の向上を目指し、鋳鉄表面に電気化学的に希土類化合物を析出させ、安定した希土類保護層を生成させ、その耐食性の検討を行う。

環境に配慮した低火度磁器の技術開発とその製品デザイン開発研究費 (継) 平成20～21年度

窯業研究室、窯業研究室伊賀分室

コスト削減を前提とし、かつ付加価値を高めた魅力ある新製品開発を目指し、窯業研究室で開発された透光性があり低火度焼結性を有する磁器素地に着目し、素地の性能の向上やそれに見合った低火度釉薬の開発、及び新アイテムの創出と試作を行う。

(2) 鑄造技術集積を生かした新製品開発支援事業費（継）平成19～22年度

金属研究室

北勢地域を中心に立地する鑄物産業の技術集積を活用して、新製品開発、新分野への進出のための製品開発を支援する。従来のマンホール等の公共事業の製品から、新しい分野の製品開発を目指し、地域の中小企業で構成する研究会を催し、その活動を通じて新製品を創出する。開発された試作品については、三重県の鑄造技術の集積した産地の製品として情報発信を行う。

(3) 三重のやきものフレッシュアップ事業費（継）平成19～22年度

窯業研究室、窯業研究室伊賀分室

新機能を付与した陶磁器釉薬と素地の開発や従来製品の高機能化を図り、新商品に結びつけるため、A) 低摩擦性釉薬の開発、B) マイクロ波発熱性耐熱素地の開発、C) 萬古急須の特性解明による潜在機能強化、D) 「伝統的な伊賀焼土鍋」の耐熱機能強化、E) 商品化の共同研究を実施し、地域産業の活性化をはかる。さらに、本年度は、事業化のための研究会開催、共同研究を実施する。

3. 技術支援業務

3.1 基本事業：県内企業への技術支援の推進（23403）

県内産業界の技術上の課題を解決するために、企業訪問による技術ニーズの把握や、依頼試験・機器開放等による技術支援に取り組む。また、中小企業の技術者が、ものづくりに必要な知識・技術を向上するための講座やセミナーを開催し、県内中小企業の技術力向上をはかる。

(1) 中小企業の技術開発人材育成事業

県内の中小企業の技術者を対象として、基盤技術研修講座、先進技術セミナーを開催する。具体的には、鑄造、陶磁器業界において、技術開発や製品開発の技術人材を育成するために「鑄造技術者育成講座」や「陶磁器技術者育成講座」、デザイン開発を進めるために「デザインセミナー」などを開催する。

(2) 産業ニーズ・技術シーズ活用化促進事業

企業訪問や窓口での技術相談の中からニーズを発掘し、共同研究など様々な施策に結びつける。また、薬事研究会、福祉用具・ものづくり研究会などを開催し、産学官研究ネットワークを充実し、県内企業のイノベーションの創出支援を行う。

(3) 依頼試験・機器開放推進事業

県内の産業界が当面する技術上の問題を解決するために、依頼試験、試験機器の開放等を実施し、企業での技術開発を支援する。また、事業計画書、業務報告書、研究報告を発行し、業務の広報を行う。

4. その他の施策、基本事業への貢献

4.1 施策：科学技術交流の推進（513）

4.1.1 基本事業：研究交流の推進（51301）

持続的・発展的な産学官連携システムを構築するため、多様な交流の場を設定し、産業界・高等教育機関等の研究者など多様な主体のネットワークづくりを進めるとともに、計画的かつ戦略的な研究連携を行うため、研究コーディネート機能や研究企画・立案力を一層強化し、共同研究・プロジェクトの推進や国等の競争的研究資金の獲得をめざす。

(1) 「次世代真珠養殖技術とスーパーアコヤ貝の開発・実用化」（継）平成19年度～21年度 医薬品・食品研究課

真珠養殖に寄与するために、斃死率が低く真珠分泌能力の高いアコヤ貝を育成するとともに、高品質真珠を高効率で生産するための養殖技術を開発する。本研究所においては、近赤外分光法によりアコヤ貝の体成分を非破壊で測定し、育種（優良系統の選抜）および養殖法（挿核に適した貝の選抜）のそれぞれに応用できる簡便・迅速な評価技術を確立する。

(2) 研究交流・研究プロジェクト推進事業費

地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」育成研究

（独立行政法人科学技術振興機構）

「カラーメッセージディスプレイ用高輝度酸化物質蛍光体の研究開発」（継）平成20～22年度

電子・機械研究課

真空蛍光表示管(VFD)型は高精細で、太陽光などの下でも適用でき、消費電力、コストにも優れて、小型化にも適用できるものの、高輝度の蛍光体が緑色に限定されている。本研究では、青・赤色蛍光体の高輝度化を行い、マルチカラー化したVFDを開発し、情報端末等への用途拡大を目指す。

地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」地域ニーズ即応型

（独立行政法人科学技術振興機構）

「オゾンマイクロバブルを応用した精密洗浄技術の開発」（新）平成21年度

材料技術研究課

オゾンマイクロバブルと超音波を組み合わせた方法により、有機溶剤フリーで安心、安全、安価な精密加工部品の精密洗浄方法を開発する。

地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」地域ニーズ即応型
(独立行政法人科学技術振興機構)
「曝気ブロックを用いた河川の汚濁度に対応する水質浄化システムの開発」(新)平成21年度
材料技術研究課
これまでに開発した曝気ブロックに、可視光反応型光触媒による難分解性汚濁物質の分解機能を付与
することで、河川の汚濁度に対応した完成度の高い水質浄化システムを構築する。

地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」地域ニーズ即応型
(独立行政法人科学技術振興機構)
「歯科インプラント手術支援用人工顎骨模型材料の開発」(新)平成21年度
材料技術研究課
複雑な顎骨への適正な歯科インプラント挿入には、人の顎骨に類似した人工骨によるドリリング操作
の習得が不可欠である。ここでは、模型材料を作製し物性等を測定・解析することにより、人の顎骨に
類似した構造と性質を有する訓練用人工顎骨模型材料開発を目指す。

地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」地域ニーズ即応型
(独立行政法人科学技術振興機構)
「ブナシメジ未利用部の利活用による脂肪肝予防素材の開発」(新)平成21年度
医薬品・食品研究課
三重県松阪産の代表的な食用きのこ「ブナシメジ」は、これまでに脂肪肝予防作用を有することが明
らかとなっている。本研究では、石づき(子実体収穫残滓)や規格外品等、廃棄されている未利用部を
利用して機能性成分を分画・抽出し、抽出物の動物培養細胞による評価や動物実験により、脂肪肝を予
防できる食品素材を開発する。本研究所では、脂肪細胞等の動物培養細胞を用いて、ブナシメジ抽出物
のスクリーニング・機能性評価を行う。

地域イノベーション創出総合支援事業「重点地域研究開発推進プログラム」地域ニーズ即応型
(独立行政法人科学技術振興機構)
「角質層の健全化をサポートするスキンケア用機能性ナノエマルジョンの開発」(継)
平成20~21年度
医薬品・食品研究課
角化異常などにより乾燥状態にある角質層に、正常な角化の促進、角質層層間への細胞間脂質の補充
を目的として、細胞間脂質類似成分を最適導入するための製剤開発を行う。本研究所は、アコヤガイ貝
殻から抽出したカルシウム等の成分を細胞間脂質類似成分に利用するため、抽出物中に含まれる重金属
等の除去技術を検討する。

都市エリア産学官連携促進事業(発展型)(文部科学省)
「全固体ポリマーリチウム二次電池の特性評価」(継)平成20~22年度
電子・機械研究課
安全性が高く、軽量・フレキシブルといった特長をもつ新しいリチウム二次電池を開発する。本事業
では、作製したリチウム二次電池の電池性能および安全性を適切に評価することにより、より特性の良
い電池の開発にフィードバックするとともに、特長を活かした用途開発にも展開する。

低炭素社会に向けた技術シーズ発掘・社会システム実証モデル事業(経済産業省)
「未来型自転車モデルとした次世代電池の研究開発・実証」(継)平成20~21年度
電子・機械研究課
低炭素社会の実現に有力な技術である次世代電池技術の高度化を図るため、同技術を活用するととも
に、プラスチックによる軽量化を図った“未来型自転車”をモデルとして研究開発を実施する。この“未
来型自転車”を事業所内の移動・輸送手段や住民等の移動手段として活用し、低炭素社会の構築に取り
組むとともに、有望成長分野である次世代中温燃料電池の技術開発を実施し、当県が目指す知識集約型
産業構造の構築に貢献する。

戦略的基盤技術高度化支援事業(中小企業庁)
「鋳鉄溶湯の不純物除去と無害化」(継)平成18~21年度
金属研究室
鋳鉄鉄源に含まれる不純物元素が、近年増加している。不純物元素の増加にともなって、球状黒鉛鋳
鉄の製造に支障が生じているが、現状ではこれをバージン材によって希釈して回避している。本事業で
は、小型の不純物除去装置を開発して、その操業条件を検討し、実用炉での実験も行う。

燃料電池実用化戦略的技術開発事業

(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

「水管理による樹脂セパレータの劣化対策の研究」(継)平成17~21年度

電子・機械研究課

固体高分子形燃料電池の基礎的劣化メカニズムの解明を目指した、燃料電池実用化戦略的技術開発事業を、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(略称:NEDO)から研究業務委託を受け、平成17~21年度の5ヵ年計画で実施している。平成21年度は、昨年度に引き続き自動車用燃料電池の低温始動領域の拡大について検討を行う。

燃料電池実用化戦略的技術開発事業

(独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

「規則性ナノ空孔材料を用いた非白金系電極触媒の微細構造技術の研究開発 - ハイブリッド酸化物系非白金触媒の電気化学的評価 - 」(継)平成20~21年度

電子・機械研究課

固体高分子形燃料電池(PEFC)に用いる白金触媒の代替材料として、タンタル酸窒化物・ジルコニウム酸化物等が高い安定性と酸素還元触媒活性を持つことが報告されている。本事業では、太陽化学株式会社において作製された非白金酸化物触媒/ナノ多孔体から構成されるハイブリッド触媒の電気化学的触媒特性評価を実施し、白金代替触媒の実用化にむけた検証を行う。

中部イノベーション創出共同体事業(財団法人中部科学技術センター)

「循環型社会を支える環境調和型材料の分析評価技術の確立」(新)平成21年度

材料技術研究課

酸化チタン結晶相については、4種類の結晶状態が存在する。この内光触媒反応について効果があるものはアナターズとルチル相であり、さらに近年の研究ではこの内アナターズ相が触媒機能の向上に貢献しているという発表がなされている。結晶相の定量法としてはリートベルト法による測定方法が多く行われているが、この結果の裏付けを得るためには別の分析方法による検証が必要と考えられる。そこで湿式分解による測定を行い、純粋な結晶相を得る技術の確立することを目標とする。

岡三加藤文化振興財団研究助成事業「可視光応答型光触媒の低コスト・高機能化製造方法の開発」

(財団法人岡三加藤文化振興財団)(新)平成21年度

材料技術研究課

酸化チタン(TiO₂)や酸化タングステン(WO₃)に対し、複数のレアアースを複合的にドーブ(結晶の物性を変化させるために少量の不純物を添加すること)する条件を詳細に制御することにより、反応性の高い可視光応答型光触媒を開発することを目標とする。また、市販品との比較評価を行い相対的な優位性について明らかとなる客観的データを取得する実験を行う。

4.1.2 基本事業：科学技術への関心の増進(51303)

県民の科学技術に対する興味や関心を高めるため、「子ども科学体験教室」やインターネット等を活用した科学技術情報の提供などを行う。

(1)科学技術理解増進事業

県民ニーズや提言などをホームページなどで収集するとともに、各研究所の成果などを通して、県民との交流をはかり、科学知識の向上と科学に親しめる基盤づくりをめざす。

科学技術週間施設公開、科学体験教室

科学技術週間に合わせ、工業研究所、金属研究室、窯業研究室の施設を県民に公開し、工業研究所では主に小学生を対象にした科学技術体験型のイベントを開催する。

施設公開：平成21年4月13日(月)~17日(金)、科学体験教室：平成21年4月18日(土)

子ども科学体験教室

リーディング産業展と同時開催される子ども科学体験教室2009に、工業分野に関する科学体験ブースの出展を行う。

開催時期：平成21年11月7日(土)

4.2 施策：安全で安心な農産物の安定的な提供（221）

4.2.1 基本事業：消費者ニーズに応えた農畜産物の安定供給（22102）

農畜産物の安定供給や食料自給率の向上をはかるため、意欲的な生産者や産地に対し、効率的な生産体制の整備や生産コストの削減に向けた支援を行い、高品質化や安全・安心など、消費者や実需者のニーズに対応した生産振興を進める。また、農産物のもつ伝統性や園芸福祉などの新たな視点からの産地づくりなどを進める飼料自給率の向上をめざし、県内産稲ワラの利用や稲発酵粗飼料の生産を引き続き進めるとともに、米粉用米等の非主食用米の生産・流通を推進する。

(1)新規需要米普及推進事業（新）平成21年度

医薬品・食品研究課

（農畜産室、マーケティング室）

米粉の利用を普及するため、米粉を小麦代替として使用する製パン及び製麺技術を開発する。製パンについては、米、小麦およびグルテンの配合割合や、発酵条件について検討する。製麺については、低アミロース品種「あやひかり」と米粉の配合割合、うどんの製造条件について検討する。開発された技術はマニュアル化し、技術実習会の開催等で普及を図る。

4.3 施策：農林水産業を支える技術開発の促進（227）

4.3.1 基本事業：農業を支える技術開発の推進（22701）

県民（消費者、農業者、農業関係団体）の多様なニーズに応えるため、農産物を対象に、新品種の育成と導入、省力的で低コストな栽培技術、高品質化と安全な食料生産、資源の循環利用、さらに環境負荷の少ない農業生産技術の開発に取り組む。

(1)新しい三重の酒造好適米品種の地域特産化事業（継）平成19～22年度

医薬品・食品研究課

（農業研究所、地域農業改良普及センター）（三重県酒造組合、JA）

酒造好適米として品種登録された「神の穂」の酒造適性を把握するため、収穫された「神の穂」の品質試験、県内酒造メーカーで生産された酒造品質確認及び小仕込み試験による酒造品質評価を行う。また、県内酒造メーカーでの実用規模の酒造試験にて得られた原料処理工程、もろみ経過、製成歩合などの基礎的なデータの集積・解析を引き続き実施する。

4.4 施策：廃棄物対策の促進（411）

4.4.1 基本事業：廃棄物の減量化や環境危機対応のための調査研究・試験検査の推進（41104）

廃棄物対策を推進するため、産業廃棄物の発生抑制技術、リサイクル技術を開発する。また、県内企業との共同研究により技術課題の解決をはかり、事業化を促進する。

(1)浄水汚泥の有効利用方法に関する研究費（継）平成19～21年度

材料技術研究課、窯業研究室伊賀分室

のり面緑化吹き付け資材の基材として浄水汚泥を使用し、保水性および付着性の向上に向けて資材の選定、調合等について詳細な検討を行い、長期的に安定な調合条件および工法を開発する。また、低温での焼成と造粒により、アンモニア、リンなどの吸着材として開発し、環境浄化資材への利用を検討する。

(2)産業廃棄物抑制産官共同研究事業（継）平成14年度～

産業廃棄物の抑制・リサイクルを推進する企業と共同研究を行い、県内企業における産業廃棄物の削減をはかる。

平成 2 1 年度 三重県工業研究所事業計画書

平成 2 1 年 5 月 2 8 日 印刷
平成 2 1 年 5 月 2 8 日 発行

編集・発行

三重県工業研究所
〒514-0819 三重県津市高茶屋五丁目5番45号
TEL 059-234-4036 (代)
FAX 059-234-3982
kougipref.mie.jp

金属研究室
〒511-0937 三重県桑名市大字志知字西山208
TEL 0594-31-0300
FAX 0594-31-8943
metalspref.mie.jp

窯業研究室
〒510 - 0805 三重県四日市市東阿倉川788
TEL 059-331-2381
FAX 059-331-7223
mie_cera@mie.jp

窯業研究室伊賀分室
〒518 - 1325 三重県伊賀市丸柱474
TEL 0595-44-1019
FAX 0595-44-1043
mie_cera@mie.jp
